

半導体漫遊記

281

湯之上隆

2021年12月15日(水)〜17日(金)の三日間、東京ビッグサイトで『SEMICON Japan』が開催された。開催者のSEMICON JAPANの発表によると、3日間の延べ来場者数の合計は2万6626人だったという。この人数は、2019年の5万1109人の約52%にすぎない。

21年は世界的に半導体が注目され、また日本でも世界の最先端の微細化を独走するTSMCが熊本にファンド

オメッセージで登壇し、続いて衆議院議員で自由民主党の半導体戦略推進議員連盟会長、甘利明氏が「半導体強国、復活に向け」で講演を行い、さらに経済産業省・商務情報政策局・審議官(IT戦略担当)の藤

半導体政策に対する真の関心度を示しているように感じる。

筆者は、2000年加えて、日本半導体産業が廃れていくに伴って、欧米の企業がブリスを出す意味がないと見切ってしまう、いきおい「日本の半導体関連」村」のように

閑古鳥鳴く「SEMICON」

問われる開催意義

導体のビジネスイベントの来場者数が一昨年の約半分にとどまっている。

田清太郎氏が「我が国の半導体・デジタル産業政策とその具体的取組について」で講演し(21年は452出展者の1358小間)がブリスを出しているが、

さらに、開会初日の「オープニング・キーノート」では、岸田文雄内閣総理大臣がビデオ

半導体製造装置メーカー、材料メーカー、部品や設備メーカーなど筆者は、12月17日に

なっていることも魅力半減させている。

Semiconductor Symposium (STS)でスピーチを依頼されていたため、その日

は会場に足を運んで講演を行ったが、それ以外の日は自宅でSTSのZoomウェビナーを聞いており、講演当日も展示会場には行かず、もっぱらSTSの講演を聞いていた。

従って、展示会場がどんな様子だったかは自分の目では見ていないが、知人らの話では「閑古鳥が鳴いている」という。TSMCが熊本に工場を建設することもあって、「日本半導体産業の復活」という話が新聞等を通じて聞いているが「SEMICON Japan」は早々に満席になった。

ビデオとはいえ総理大臣が登壇し、自民党の半導体議連の会長が講演するにもかかわらず、人が集まらず各種シンポジウムの集客も低調である。そして展示会場は閑古鳥が鳴いている有様だ。もはや

SEMICON Japanの延べ来場者数

	2021年	2019年
12月15日(初日)	8,338	16,928
12月16日(2日目)	8,961	17,965
12月17日(最終日)	9,327	16,216
3日間合計	26,626	51,109

出所: SEMIジャパンの発表による

『SEMICON Japan』の期間中に、無料のシンポジウムが12件行われたが、満席になったのはわずか4件である。また、有料のシンポジウムが19件行われたが、満席が確認できたのは3件にとどまっている(なお、筆者が講演した「先端材料・構造・分析セッション」は早々に満席になった。

SEMICON Japanを開催する意義が問われているように思う。

(微細加工研究所・所長)